

京都市立病院 連携だより

vo.60
令和8年4月



- 院長のご挨拶
- 地域連携室からのお知らせ
- 小児科のご紹介
- 呼吸器外科のご紹介

「杉林の中で咲くシャガ」
京都府綾部市

撮影:糖尿病・代謝内科部長 小暮 彰典

京都市立病院機構理念

京都市立病院機構は

- 市民のいのちと健康を守ります
- 患者中心の最適な医療を提供します
- 地域と一体となって
健康長寿のまちづくりに貢献します

京都市立病院憲章

- 1 質の高い安全な医療を提供するとともに、地域の医療水準の向上に貢献します。
- 2 患者の権利と尊厳を尊重し、心のこもった医療を提供します。
- 3 救急や災害時における地域に必要な医療を提供するとともに、地域住民の健康の維持・増進に貢献します。
- 4 病院運営に参画する事業者等とのパートナーシップを強め、健全な病院経営に努めます。
- 5 職員の育成に努め、職員が自信と誇りを持ち、全力で医療に従事できる職場環境を作ります。

院長のご挨拶

令和8年にかけてのこの冬は、京都市内でも警報レベルを超える季節性インフルエンザ流行のピークが11月と2月に2度見られ、それぞれA型とB型が主要な流行ウイルスでした。一方、新型コロナウイルス感染症の大きな流行は見られず、明らかに以前のコロナ流行とは異なり、この2つの感染症を含む季節ごとに流行する種々の感染症の状況は、コロナ禍前に戻りつつあるように感じられます。

令和7年度の当院の状況を振り返りますと、6月に導入したWeb予約(SAKU洛連携)システムは、ご利用いただいている医療機関の先生方にはとても好評です。また、ご希望のあったCTやMRI検査のWeb予約も令和8年2月下旬より開始しております。



院長 清水 恒広

8月からは脳神経外科が新体制となり、京都府立医科大学より医師を派遣いただくことになりました。令和8年度には医師の増員があり、令和6年に整備した血管内治療機器など新たな手術機器をフル活用し、さらに精力的に診療を向上してまいります。

当院の強みである「がん医療の推進」ですが、地域がん診療連携拠点病院として、手術支援ロボットダヴィンチXi、SPの2台体制で患者さんの体に負担が少なく早い退院をめざし、現在は、特に消化器外科、産婦人科の2診療科を中心に手術件数を増やしています。外来化学療法では、治療前に多職種で副作用などのリスクを十分共有し、患者さんごとにきめ細やかな対応を行っています。また、放射線治療においては、強度変調放射線治療(IMRT)や定位照射などの高精度照射だけでなく、疼痛緩和目的の即日対応放射線治療(1day照射)や就労支援対策の一環として夕方の時間外照射も実施しています。

がん相談支援センターは、令和7年1月に京都府内で初めて国立がん研究センターによる「認定がん相談支援センター」と認定されました。全国でも先駆的な取組として、がん治療に伴う外見(アピアランス)の変化をもつ患者さんの悩み・苦痛を軽減する「アピアランスケア」の啓発普及に取組み、公募で選ばれた厚生労働省モデル支援事業として、令和7年11月に「みてみて! 京都アピアランスケア展」と題した研修会を開催し、約200名の参加者を得て盛況のうちに終了しました。

さて、コロナ禍は終息したものの、近年どの医療機関も経営は厳しく、特に大半の自治体病院は赤字経営と報道されています。2年間固定されたままの診療報酬では、急速に進む物価高騰・賃上げ対応には追いつかず、当院も令和6年度より収支改善の取組を継続しています。また、令和7年度から京都市主導による当院の将来のあり方検討も進んでいます。今まで通り、感染症、災害、救急などの政策医療を基盤に据え、当院の強みであるがん医療の推進を中心に、現時点の病院機能を維持したまま、令和8年4月からは稼働病床数を440床とスリム化し、経営基盤をさらに強化して診療を継続していきます。引き続き「市民のいのちと健康を守る」京都市立病院として、職員一同気持ちを新たにし、患者さんの気持ちに寄り添った、安全で質の高い医療を提供していく所存です。今後進む新たな地域医療構想の中で、当院の役割分担を明確にし、連携を強化してまいりますので、地域の皆さまには、さらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年4月

CT・MRI検査のWeb予約を開始しました!

かねてより要望をいただいております、CT・MRI検査のWeb予約を開始しました。CT(造影あり・なし)、MRI検査(造影なし)の空き状況をWeb上で確認でき、その場で予約を確定していただけます。ぜひご利用ください。

SAKU洛連携の登録がまだの方は当院のHPから登録用紙をダウンロードできますので、ご登録をお待ちしております。

こちらから登録用紙をダウンロードできます。▶



SAKU洛連携 イメージ画像

●予約日時を選択して下さい

整形外科 健二 室

2026年3月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2026年3月5日(木)

予約時間	予約
11:00	予約
11:30	予約

2026年4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

連携先病院を選んでクリックして下さい

京都第一赤十字病院
ご利用ガイド▶

京都府立医科大学附属病院
ご利用ガイド▶

京都第二赤十字病院
ご利用ガイド▶

京都市立病院
ご利用ガイド▶

京都大学医学部附属病院
ご利用ガイド▶

京都医療センター
ご利用ガイド▶

SAKU洛連携とは

SAKU洛連携にご登録いただくと、Web上で予約・変更・キャンセルが可能です。京都市立病院をはじめ6病院(京都第一赤十字病院、京都第二赤十字病院、京都大学医学部附属病院、京都府立医科大学附属病院、京都医療センター)の予約を取得することができます。空き状況も確認できるため、病院にご連絡いただくことなく予約を確定することができます。まだご利用いただいていない医療機関の皆様におかれましては、この機会にぜひご登録をお願いいたします。

みぶ病診連携カンファレンス

当院では、月に1回第4木曜日に紹介患者様の症例検討等を通じて、病診連携を深めるとともに、地域医療の発展に寄与することを目的として、カンファレンスを開催しています。

昨年度より対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式での開催を行っております。カンファレンスの内容はご紹介いただいた患者様の症例検討など、リクエストも受け付けております。また、当院と地域の先生方とのクローズな会となっておりますので、ご参加いただいている先生からは「本音でお話できる」と好評です。オンラインの場合は事前にメールでお申込みいただく必要がありますが、現地にお越しいただく場合はお申込みが無くてもご参加いただけますので、お気軽にご参加いただければ幸いです。開催予定はホームページに掲載しているほか、登録医の先生方にメールでお知らせしております。メール配信を希望される方は登録医のお申し込みをお願いいたします。

登録医の先生方でメールアドレスを登録されていない方もこの機会にぜひご登録ください。

日時 毎月第4木曜日 午後4時～5時 **場所** 京都市立病院 北館7階 ホール2

令和8年度スケジュール

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| ● 第1回(令和8年 4月23日) 糖尿病代謝内科 | ● 第8回(令和8年 11月26日) 救急科 |
| ● 第2回(令和8年 5月28日) 眼科 | ● 第9回(令和8年 12月24日) 脳神経内科 |
| ● 第3回(令和8年 6月25日) 内分泌内科 | ● 第10回(令和9年 1月28日) 歯科口腔外科 |
| ● 第4回(令和8年 7月23日) 放射線治療科 | ● 第11回(令和9年 2月25日) 耳鼻いんこう科 |
| ● 第5回(令和8年 8月27日) 消化器外科 | ● 第12回(令和9年 3月25日) 泌尿器科 |
| ● 第6回(令和8年 9月24日) 産婦人科 | |
| ● 第7回(令和8年 10月22日) 呼吸器外科 | |

お問合せ先

患者支援センター 地域連携室 E-mail:renkei@kch-org.jp

小児科のご紹介

小児科では、未来を担うすべての子どもたちのための医療を提供できるよう、日々前向きに診療に取り組んでいます。処置や入院時のプレパレーションや、幼少時に慢性疾患に罹患されたお子さんが成長した後に行う二次説明にも力を入れています。



小児科部長
石田 宏之

診療スタッフ・病棟

当院小児科では、常勤医12名(小児科学会専門医10名、小児神経学会専門医2名、小児血液・がん学会専門医3名、血液学会専門医4名、造血・免疫細胞療法学会認定医3名、救急医学会専門医1名、アレルギー学会専門医1名)と非常勤医2名により、急性・慢性疾患を問わず小児疾患のほぼ全領域にわたる診療を行っています。

入院診療は、小児科一般病棟(無菌室を含む)26床およびNICU 6床で対応しています。



診療内容

午前是一般急性疾患外来、午後は各種慢性疾患の専門外来を行っています。救急室では、小児科医が土日・祝日を含む24時間体制で救急対応を行っています。

2024年度の実績	
外来患者数	16539人
紹介患者数	1488人
救急搬送患者数	914人
入院患者数	1311人

各部門より

感染症・集中治療

呼吸器・消化器・尿路感染症以外にも、菌血症、中枢神経・傍頭蓋感染症やレプトスピラなどのまれな感染症にも対応しています。

(例) 副鼻腔炎に伴い右眼静脈・「海綿静脈洞」血栓症を発症した症例▶[図①](#)

小児神経

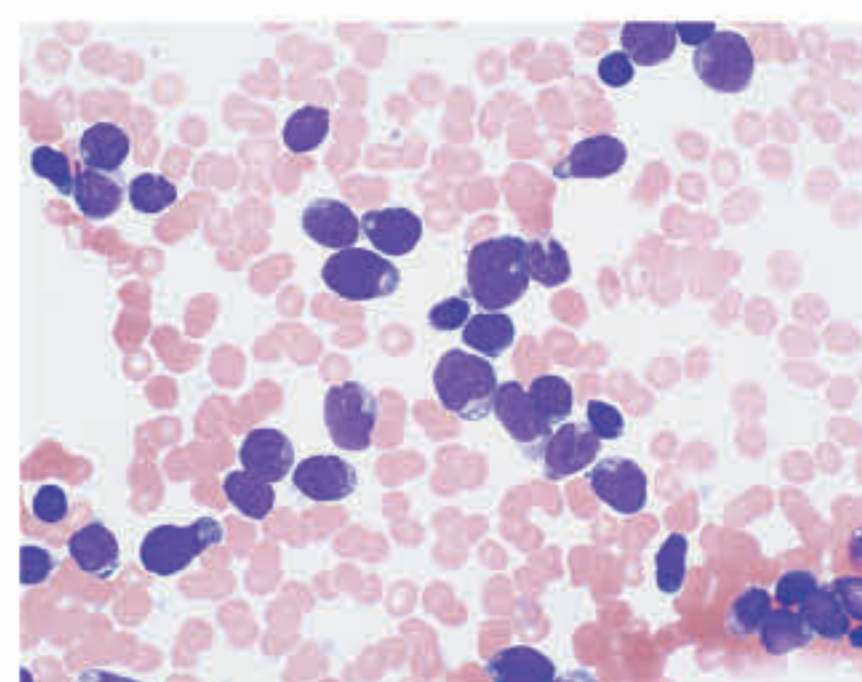
約400例のてんかん患者や、脳炎・脳症、ギラン・バレー症候群、筋ジストロフィーなどの診療や、他施設と連携することで遺伝子診断も行っています。発達障害があるお子さんには、心理士によるカウンセリングや発達テストも実施しています。小児神経学会専門医研修施設に認定されています。

(例) 頭痛・嘔気で紹介。脳動静脈奇形からの小脳出血症例▶[図②](#)

小児内分泌

低身長を来す疾患、甲状腺疾患、糖尿病(インスリンポンプ療法を含めた管理)の診療を行っています。女性医師のため、思春期早発症、バセドウ病など多数の思春期女性患者の診療を行っています。

[図③](#)



[図④](#)



小児血液・がん

両大学病院とともに、造血不全疾患や年間4~8人の白血病などの血液悪性疾患に対して、化学療法や造血細胞移植療法を行っています。日本小児がん研究グループ参加施設、小児がん連携病院で、小児血液・がん学会と日本血液学会の専門医研修施設(科)にもなっています。

(例) 移植治療を要した再発性T細胞性急性リンパ性白血病症例▶**図③**

小児腎臓

先天性腎尿路異常、ネフローゼ症候群や慢性腎炎の診断(腎炎に対しては腎生検を含む)と治療(学童期以上では一部の血液浄化療法にも対応)を行っています。夜尿症には専門外来を設けています。

アレルギー

年間約20名のアナフィラキシーの治療。気管支喘息、アトピー性皮膚炎の管理に加え、食物アレルギーに対しては年間約150例の日帰り入院による食物経口負荷試験を実施しています。

(例) 腸管浮腫による強い腹痛を呈した遺伝性血管浮腫症例▶**図④**

小児リウマチ

若年性特発性関節炎、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎など小児リウマチ性疾患の治療を行っており、小児リウマチ学会の診療連携施設に指定されています。

(例) NPX2抗体が証明された若年性皮膚筋炎症例

▶**図⑤**: ①陰性コントロール、
②陽性コントロール、③症例

未熟児・新生児

年間50~70人の未熟児・新生児に対して、挿管人工呼吸器管理や小児外科的治療を含めた対応をNICUで行っています。また、社会的背景から様々な支援を必要とする症例についても、多種職が連携して対応しています。

その他の領域

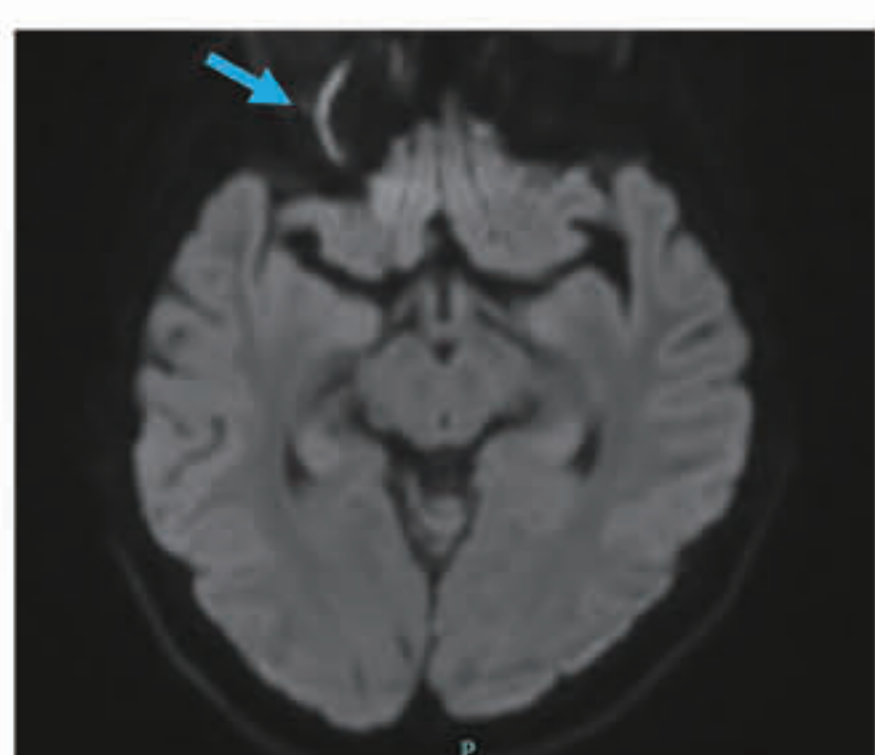
川崎病は年間30~50名を診療しています。乳児のRSウイルス性肺炎、てんかん重積、基礎疾患を持つお子さんの重症肺炎に対して、人工呼吸器管理などの集中治療を要する場合は、ICUで管理しています。長期入院を必要とするお子さんには、治療だけでなく、院内学級やインターネット授業を通して学習機会を確保し、さらに各種行事や体験活動を通して、入院により制限される経験をできる限り減らせるよう工夫しています。



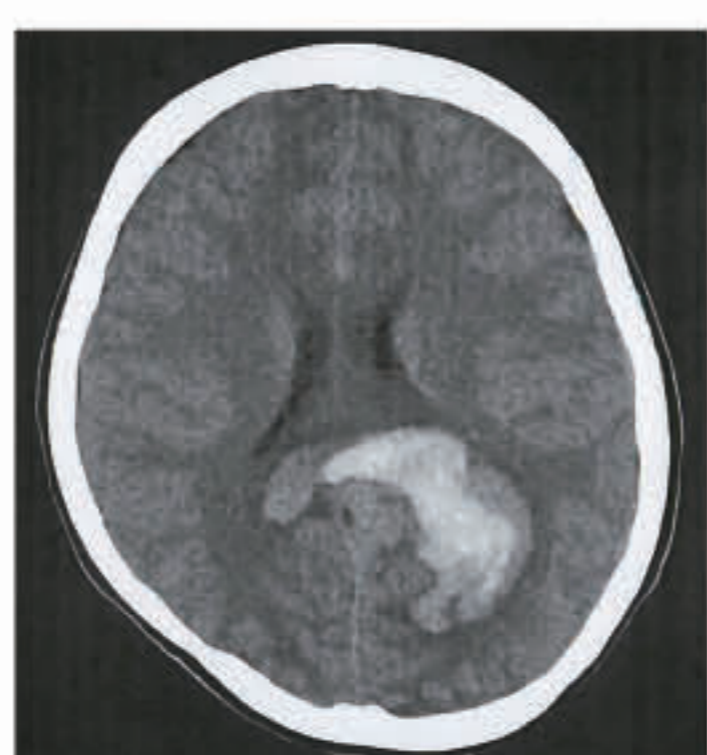
より良い小児医療を提供できるように、さらに努力していきますので、地域の先生方、軽症・重症を問わず、どうぞお気軽に患者さんをご紹介くだされば幸いです。



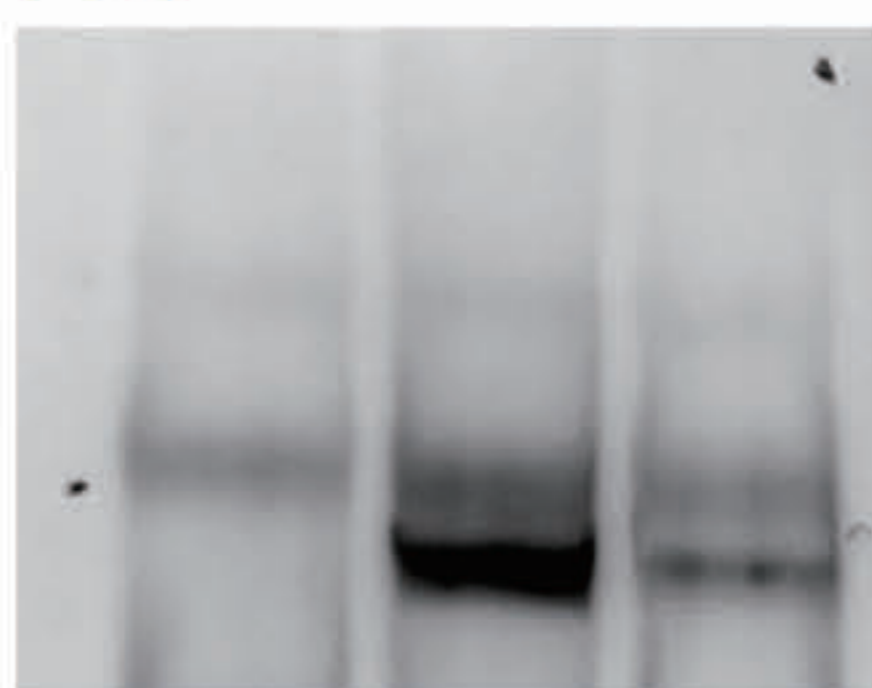
図①



図②



図⑤



①

②

③



バリエーションに富んだ胸部外科手術

いつもご紹介有難うございます。京都市立病院呼吸器外科では、肺がんの治療に力を入れておりますが、その他にもバリエーションに富んだ手術を行っています。その一つが手掌多汗症に対する胸部交感神経節切除術です。手のひらに大量の汗をかくために、学業・仕事・日常生活等いろいろな場面で悩んでおられる人は、割合にすると約5%おられると考えられています。手掌多汗症は自律神経の一つである交感神経が過度に緊張することが原因と考えられています。発汗の程度にも差があり、局所制汗剤・イオントフォレーシス・ボツリヌス毒素剤・抗コリン剤といった皮膚科的治療

をまず行うべきですが、それでも症状がコントロールできないくらい重症で患者さんのご希望が強い時に胸部交感神経節切除術の適応となります。当院では、全身麻酔の下、両側の腋窩に5mm程度の傷を2か所ずつ作成し胸腔鏡視下に行います。ほとんどの患者さんが手の汗を減らすことができ、「積極的な行動がとれるようになった」、「仕事の能率が上がるようになった」等、喜んでいただいています。治療内容の詳細については外来でお話いたします。



呼吸器外科部長
宮原 亮



近年膿胸手術は漸増傾向にあります。これは高齢化に伴う市中肺炎・誤嚥性肺炎の増加、免疫療法を受ける患者さんの増加などの要因があげられています。これらの要因のため抗菌薬治療が進歩した現在においても膿胸は治療困難であり、治療時期や治療法の選択が治療成績に大きな影響を与えるため、日本呼吸器外科学会は、令和5年3月に「膿胸治療ガイドライン」を作成しています。膿胸は発症から3か月以上経過している慢性膿胸と3か月以内の急性膿胸に分類され、さらに急性膿胸は、滲出性期、繊維素膿性期、器質化期の3期に分けられます。ガイドラインではいずれの時期でも治療効果における手術の有効性が示されています。次の図は膿胸のイメージ図です。胸腔で肺の周囲に膿が貯留して、肺はつぶれた状態です。膿の中には繊維素が析出して隔壁となり膿胸腔を小さな部屋に分

けてしまっても管を入れても有効に膿が排出されません。肺は臓側胸膜で包まれているが、縮んで皺のいっただまその上に膿の分厚い膜が付着してしまっており、膿が排出されたとしても肺の再膨張が得られない状況となっています。手術は、隔壁を壊して膿を排除し、臓側胸膜の上に張り付いた分厚い膿の膜を取り除いて、肺が再膨張できるようにします。当院ではこういった手術をここ10年で77人の患者さんに行ってまいりました。10年前は年間6人程度でしたが、近年は14人程度とやはり漸増しています。



手術で胸腔内の膿を除去するとともに肺の周りの分厚い膿膜を剥離切除して良好な肺の進展性が得られるようにする。

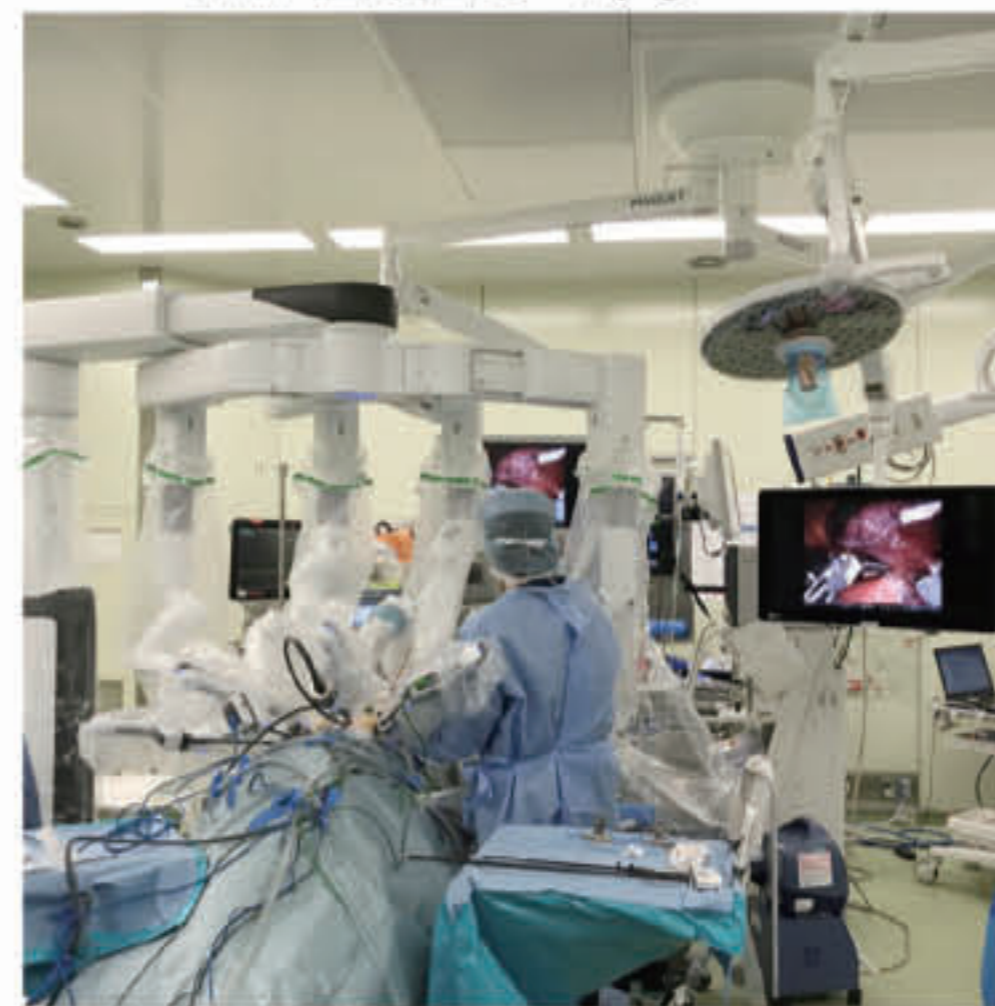




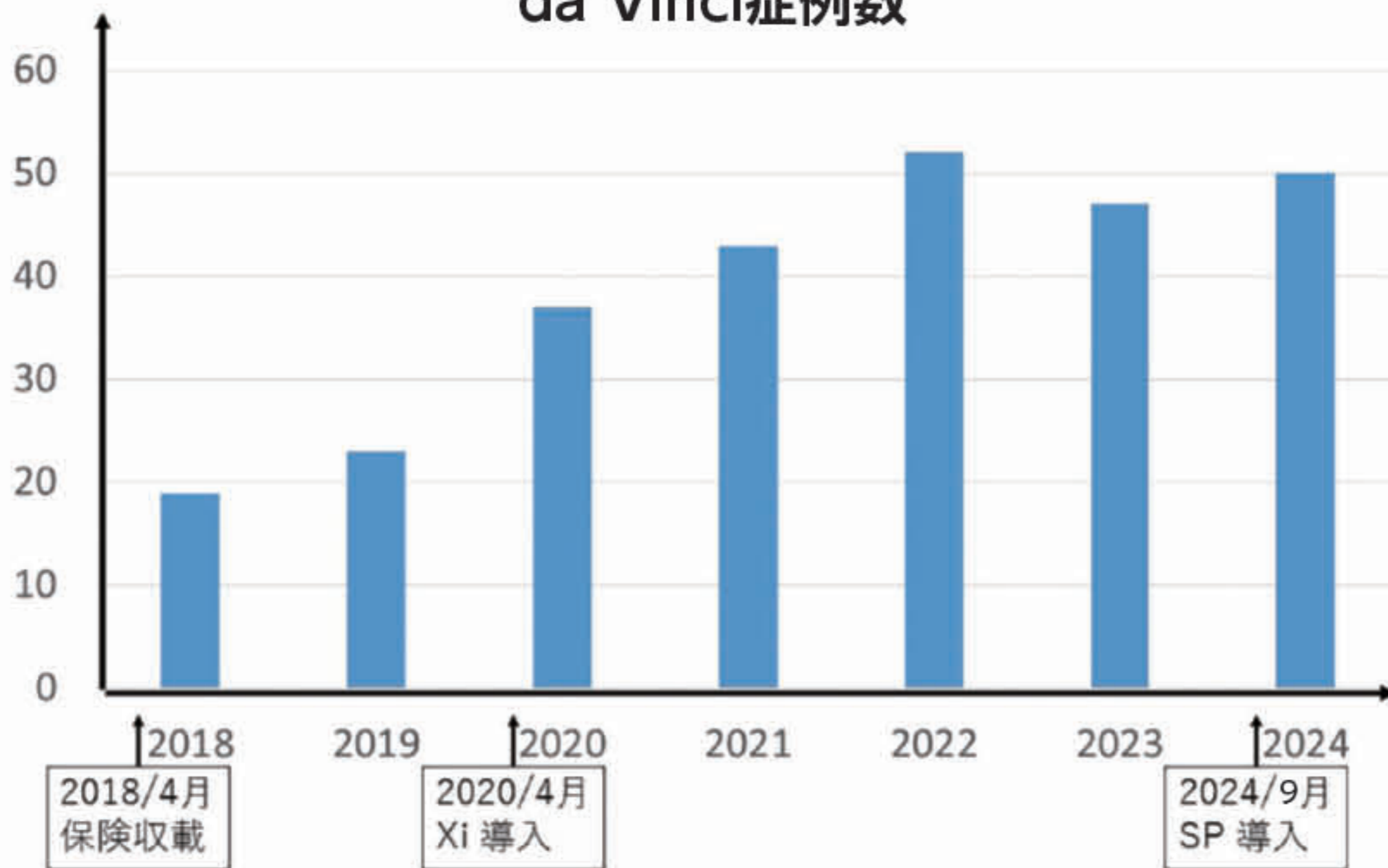
肺がん治療領域における最近の進歩は著しいものがあります。まず手術の低侵襲化が進みました。当院では2013年に da Vinci Siを導入し、呼吸器外科では2014年6月に第1例目を行いました。2020年4月にはda Vinci Xiが導入されロボットのメリットが素晴らしく顕在化して、症例数もぐっと増加しました。さらに2023年12月からはSPが導入され、呼吸器外科においては2024年9月からXiとSPの2台体制となっています。次に、薬物療法の領域では、多岐にわたる分子標的治療薬、中でもドライバー遺伝子変異が次々と明らかとなってコンパニオン治療薬が開発されたり、免疫チェックポイント阻害剤の開発により、切除不能・再発の肺癌患者さんの治療目標が長期生存さらには治癒を目指せる時代となってきました。このこ

とが背景となり、局所進行肺がん患者さんに対する周術期治療にもチロシンキナーゼ阻害薬と免疫チェックポイント阻害薬が導入されて、術後治療成績を向上させています。当科ではこういった急速な治療方法の進歩に敏感について行って肺がんの治療成績を改善させる努力をしています。

Xi 2020 4月～



da Vinci症例数



SP 2024 9月～



今回は、呼吸器外科のバリエーションに富んだ対象疾患について紹介させていただきました。今後ともご紹介よろしくお願いいたします。

紹介患者さん診療・検査事前予約ご利用のご案内

医療機関用 「SAKU洛連携」

Web予約

ご予約時には事前に利用登録が必要です。

【利用申し込み】【Web予約システムについて】は下記ホームページをご確認ください。
(<https://www.kch-org.jp/medical/chiikirenkei>)

●予約方法

①Webページ上で予約を取得してください。

「SAKU洛連携」

(<https://www3.e-renkei.com/hospital/group-sakuraku/login.php>)

②患者さんに以下をお渡しください。

- 予約受付票
- 診療情報提供書(紹介状)
- 画像データ等

③「診療情報提供書」を当日中にFAXで送信してください。

④患者さんに、以下をお持ちのうえ、予約受付票のご案内時間までにお越しいただくようお願いください。

■先生から受取ったもの

- 予約受付票
- 診療情報提供書(紹介状)
- 画像データ等

■別に必要なもの

- マイナ保険証又は健康保険証
- 診察券
- お薬手帳又はお薬のわかるもの

医療機関用 外来診療・検査事前予約

FAX予約

待ち時間を短く患者さんが円滑に診療・検査を受けられるように、病院及び診療所の先生から『事前予約』をお受けしております。

●予約方法

①「紹介患者さん事前予約申込FAX用紙」に必要事項を記入し、地域連携室までFAXで送信してください。

②直ちに、予約をお取りし、「予約受付票」をFAXで送信します。ただし、受付時間外のFAXについては、翌営業日の朝にご連絡いたします。

③患者さんに以下をお渡しください。

- 予約受付票
- 診療情報提供書(紹介状)
- 画像データ等

④ご来院時、患者さんには以下をお持ちいただきます。

■先生から受取ったもの

- 予約受付票
- 診療情報提供書(紹介状)
- 画像データ等

■別に必要なもの

- マイナ保険証又は健康保険証
- お薬手帳又はお薬のわかるもの
- 診察券



予約受付先

●京都市立病院地域連携室

TEL (075)311-5311(代) (内線2113)

FAX **(075)311-9862(専用)**

●事前予約医療機関専用電話

(075)311-6348

事前予約受付時間(土日祝日を除く)

平日/8:30~19:00(木曜日は17:00まで)

FAXは、24時間お受けしています。

地域連携相談業務

平日/8:30~17:00(月曜日~金曜日)

患者さん用 紹介患者さん事前予約センター

電話予約

先生からの紹介状があれば、患者さんからのお電話で、ご自身のスケジュールに合わせた予約をお取りいただけます。(*担当医師の指定、検査の予約はできません)

●予約方法

①お電話をされる前に、患者さんには以下をお手元にご用意いただきます。

- 事前予約申込票(必要事項記入済みのもの)
- 診療情報提供書(紹介状)
- 診察券 ※初診でもご予約可能です。

②患者さんから「事前予約センター」へお電話いただきます。

専用電話番号 **(075)311-6361**



受付時間/月~金(9:00~17:00)

※土・日・祝・年末年始(12/29~1/3)を除く

●ご予約は前日17:00まで受付しております。

▶電話予約時に確認させていただく内容

- 患者さんのお名前(漢字・ヨミガナ)
- 生年月日・性別
- ご連絡先(電話番号等)
- 紹介元医療機関名・予約診療科

③ご来院時、患者さんには以下をお持ちいただきます。

■先生から受け取ったもの

- 事前予約受付票(必要事項記入済みのもの)
- 診療情報提供書(紹介状)
- 画像データ等

■別に必要なもの

- マイナ保険証又は健康保険証
- お薬手帳又はお薬のわかるもの
- 診察券

健康診断や人間ドック、各種検診で「要精密検査」となった場合でも、上記と同様の手続きで事前予約が可能です(初診でも予約可)。ぜひご利用ください。

※ただし、市立病院で人間ドックを受けられた場合は、健診センターでの予約となります。

専用の申込用紙は、京都市立病院のホームページからダウンロードが可能ですので、ぜひご利用ください。



地方独立行政法人 京都市立病院機構

京都市立病院

地域連携室

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1-2

TEL 075-311-5311(内線2113) FAX 075-311-9862

事前予約医療機関専用電話(地域連携室直通) 075-311-6348

<https://www.kch-org.jp/>

